

水稲「つくしろまん」の品質向上のための栽培法					
<p>[要約] 水稲「つくしろまん」の移植適期は6月5半旬頃で、収量55kg/aを目標とした場合、施肥窒素量は地力中～高の圃場では5+2+0kg/10a、地力低の圃場では5+2+1.5kg/10aである。目標籾数は2.8～2.9万/m<sup>2</sup>で、穂肥施用時の葉色はカラスケールで3.5、葉緑素計で35.0～36.0である。収穫適期の判定はヒノヒカリに準ずる。</p>					
担当部署	農産部・栽培品質チーム 豊前分場・野菜・水田作チーム			連絡先	092-924-2937 0930-23-0163
対象作目	水稲	専門項目	栽培	成果分類	技術改良

[背景・ねらい]

早生水稲新品種「つくしろまん」は極良食味で広範な普及が期待されているが、年次によっては外観品質の低下がみられることがあり、収量を確保して品質を向上させるための栽培法の確立が求められている。そこで、移植時期、施肥法や収穫期と収量、品質の関係を明らかにし、高品質安定生産技術を確立する。(要望機関名：農業振興課(H13))

[成果の内容・特徴]

1. 移植適期は6月5半旬頃である。早植すると外観品質が低下し、収量もやや少なくなる。登熟適温(出穂後20日間の平均気温)は25～26で、26を超えると充実不足や背白粒、心白粒の発生により検査等級が低下する。食味はどの移植期においても安定して高い(表1)。
2. 収量55kg/aを目標とした場合、地力中～高の圃場での必要施肥窒素量は5+2+0kg/10a、地力低の圃場では5+2+1.5kg/10aである。この場合の目標籾数はm<sup>2</sup>当たり2.8～2.9万、穂肥施用時の目標葉色値はカラスケールで3.5程度、葉緑素計(SPAD-502型)で35.0～36.0である(表2、図1、2)。
3. 登熟日数はヒノヒカリと同程度の約40日で、刈取時期と収量、品質の関係もほぼ同様である(データ省略)。収穫期の判定指標は以下のとおりである。

出穂期後 積算気温		籾水分		黄褐色籾 粒数歩合	籾水分1 %減少に 対応する 積算気温	成熟期 前後日数	
早限	晩限	早限	晩限	早限		前	後
		%	%	%		日	日
900	1050	28	23	75	30	4	4

[成果の活用面・留意点]

1. つくしろまん栽培技術指針に登載し、品質向上のための指導資料として活用できる。
2. 圃場の地力は福岡県水稲施肥基準を参考として判断する。

[ 具体的データ ]

表 1 移植期と生育、収量、品質

試験場所	移植期 月日	出穂期 月日	成熟期 月日	登熟温度	穂数 本/m <sup>2</sup>	籾数 x100/m <sup>2</sup>	千粒重 g	玄米重 kg/a	検査等級	玄米品質			食味評価
										心白 %	乳白 %	背白 %	
農産	5.15	8.1	9.11	27.7	415	284	23.3	56.0	8.0	6.9	0.5	13.8	(+0.59)
	6.10	.16	9.25	26.2	379	267	23.8	56.5	4.5	6.3	0.5	14.2	(+0.39)
	.25	.25	10.4	25.6	392	295	24.3	61.5	4.5	6.7	1.4	1.3	(+0.50)
豊前	5.25	8.6	9.11	27.2	387	283	22.2	54.6	6.5	5.5	0.9	17.0	+0.22
	6.7	.13	.20	26.6	360	290	22.4	55.8	4.0	4.7	1.0	4.6	+0.43
	.15	.18	.26	25.9	362	273	23.0	53.7	3.8	2.9	0.4	4.3	+0.25
	.22	.22	.29	25.9	389	298	22.8	57.0	2.5	2.8	1.7	0.4	+0.20

注) 1. H13、14年平均値。( )は14年のみ。2. 登熟温度は出穂後20日の平均気温。  
3. 検査等級は1等上~3等下を1~9で示した。4. 食味の基準米はコシヒカリ。

表 2 施肥法と生育、収量、品質

試験場所	圃場地力	施肥量 Nkg/10a	穂肥時葉色		穂数 本/m <sup>2</sup>	籾数 x100/m <sup>2</sup>	千粒重 g	玄米重 kg/a	検査等級	玄米 タハ <sup>o</sup> ク %	食味評価
			C.S.	SPAD							
農産	高	3+2+1.5	3.3	34.9	350	263	24.4	58.1	4.0	6.4	+0.28
		3+2+0	3.3	35.4	357	256	23.5	54.8	3.3	6.1	+0.31
		5+2+1.5	3.7	36.7	381	294	23.9	62.2	3.8	6.5	+0.28
		5+2+0	3.7	36.2	375	275	23.6	59.4	3.3	6.2	+0.34
豊前	低	3+2+1.5	3.2	33.7	354	276	22.7	54.1	4.0	5.9	+0.19
		3+2+0	3.2	33.7	346	264	22.4	49.2	4.5	5.7	+0.38
		5+2+1.5	3.3	35.3	371	293	22.7	56.0	4.5	6.2	+0.20
		5+2+0	3.3	35.3	366	276	22.3	51.1	4.5	5.9	+0.37

注) 1. 13、14年平均値。2. C.S.はカースケール群落葉色値。SPADはSPAD-502型測定値。  
3. 農産は地力の高い圃場での値。4. 玄米タハ<sup>o</sup>ク質含有率は水分15.0%の場合。

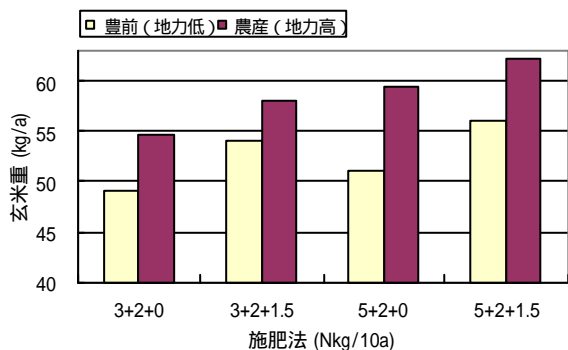


図 1 地力及び施肥法と収量

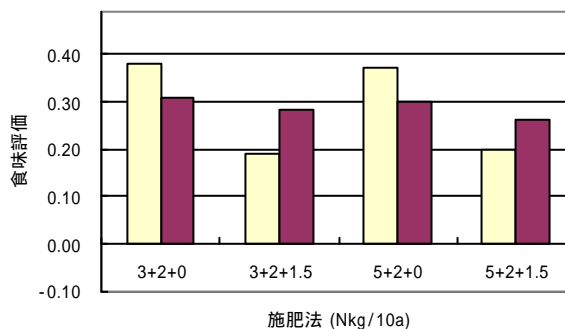


図 2 地力及び施肥法と食味

注) 1. 13、14年平均値。2. 食味の基準米はコシヒカリ。

[ その他 ]

研究課題名：水稻早生品種「つくしろまん」の高品質安定生産技術  
 予算区分：経常  
 研究期間：平成14年度（平成13、14年）  
 担当研究者：田中浩平、福島裕助、内川修、岩淵哲也、荒木雅登